

平成30年度第4回岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会議事録

1 日時

平成30年11月1日（木） 13:00～16:30

2 場所

エスポワールいわて 1階 小会議室

3 出席委員（敬称略）

委員長 岡田 秀二
委員 北舘 充史
委員 郷右近 勤
委員 佐藤 愛理
委員 田村 恵
委員 千葉 星子
委員 福士 信幸

4 議事

【1 開会】

事務局が開会を宣言。

【2 挨拶】

〔岩手県農林水産部農政担当技監〕本日はお忙しい中、委員会にご出席いただき、厚く御礼申し上げます。また、皆様には常日頃から、本県農業・農村の振興にご尽力を賜り、重ねて感謝申し上げます。

最近の農業を取り巻く情勢を振り返ると、西日本豪雨や北海道胆振東部地震など、全国各地で大きな災害が発生し、本県でも、大型の台風の来襲も何度か懸念されたが、大きな影響は無く、無事、出来秋を迎えることができたと感じている。中でも米については、本日の岩手日報にも掲載されたが、ほぼ平年並みの作況で、1等米比率が全国1位であった。これは、生産者や関係機関の努力の賜物であり、頭が下がる思いでいっぱいである。それから、一関市の本寺地区が、今年度の農林水産祭で「天皇杯」の受賞が決定した。このことについても、中山間地域等直接支払交付金等の事業に取り組んだ結果と考えている。

本日は、地域の特色を生かし、活性化に成果をあげている団体を表彰する「いわて中山間賞」について、ご審議いただくこととしている。これまで、西和賀町、一関市、山田町の3団体について、現地調査も行ったところであり、よろしくご審議いただくよう、お願い申し上げます。

また、「いわて中山間賞」の審議の後には、「県次期総合計画」に係る意見交換を予定し

ている。今年度の第2回推進委員会でご意見・ご提言を踏まえ、計画にどのように反映したか、説明させていただく。

限られた時間であるが、様々ご意見・ご提言などをお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

事務局から、委員9名のうち、過半数を超える7名の出席があることから、委員会が成立することを報告。

(これ以降、設置要領第4の2の規定により、岡田委員長が議長となり進行。)

【3 協議】

(1) 平成30年度「いわて中山間賞」の選考

事務局が資料1に基づき、「いわて中山間賞」の概要と選考の基準を説明。

① 西和賀町「大野区」

事務局が資料1に基づき、取組の概要を説明。

《意見等の内容》

〔郷右近委員〕団体の調書に記載されている取組だけでも素晴らしいが、一人暮らしのお年寄りが抱える買い物弱者の問題などを、行政に頼りがちとならず、自分たちで解決しようとしていた。葬祭も地域で取り組んでおり、素晴らしいと感じた。

〔千葉委員〕東京都から、地域おこし協力隊として、女性の若い方が来ていた。その方から話を聞くと、雪や、前向きに活動する地域住民の積極的な姿に魅力を感じたそうである。また、そばもちや漬物などの地域の郷土料理を継承しようと、年齢問わず、地域一丸となって前向きに取り組んでいた。

〔田村委員〕ふれあい農園は、大野区にどれくらいあるのか。

〔事務局〕団体の調書には、畑が約5haと記載されているので、このうちのいくらかが、ふれあい農園として活用されているものと思われる。県内の他地域にも、幼稚園との交流のためにふれあい農園を設置する集落もあるほか、体験農園のような形で、お金をいただいて家庭菜園を楽しんでもらうというものがあるが、大野区のふれあい農園は、それらとはまた違う。

〔田村委員〕地域の農地を守る素晴らしい活用方法と思う。

〔福士副委員長〕西和賀地区は、標高が240～250mほどで、雪が多い。そうすると、当

然農業は大変だが、皆で団結して様々な活動に取り組んでおり、人のつながりも良く見える。例えば、大野区の自治会長とのつながりで、盛岡市でジャズコンサートを開催したり、地鶏「南部かしわ」の飼育管理や、花巻市の納豆工場への大豆の出荷にも取り組んだりしている。昔からの活動に取り組むだけでなく、新しいものも取り入れていると感じた。地区の合言葉は「もっこり」だそうで、もっこりカレンダーを作成し、各世帯に配付しているとも聞いた。カレンダーには地域住民の活動写真を多く使用しているが、全員集まって撮るのが楽しみとのことである。

〔北館委員〕国際ボランティアNGOを含め、地域の交流人口はどれくらいか。

〔事務局〕国際ボランティアNGOだけではなく、彼らを通じてNTT東日本の社員研修も受け入れているので、幅広いネットワークが構築されているものと思われる。

〔岡田委員長〕企業研修を受ける方々は、どこに宿泊するのか。

〔事務局〕町内に宿泊施設（沢内バーデン）があるほか、少人数であれば、農家民泊で対応している。

〔岡田委員長〕大野区の代表は、どのような方か。地域住民がきちんとした意識を持っていることは解ったが、リーダーの役目も重要である。

〔事務局〕農業者と聞いている。代表以外にも、集落を取りまとめる複数のリーダーがおり、町会議員や町役場職員も事務局となっている。

〔岡田委員長〕意見交換の結果として、大野区に平成30年度「いわて中山間賞」を授与することが妥当としてよろしいか。

〔委員一同〕（同意）

② 一関市「千厩町大平集落」

事務局が資料1に基づき、取組の概要を説明。

《意見等の内容》

〔岡田委員長〕先ほどの大野区とは対照的に、集落協定の構成員全員が農業者である。しかし、性格が異なるにもかかわらず、お互いに似たような取組ができている。「そばまつり」以外の取組で、地域外の方々との交流はあるか。

〔事務局〕 現地調査では、集落の活動写真を見学したが、その中に、演奏会などを開催し、多くの方々が交流している写真もあったので、その中に地域外の方も交ざっているのかも知れない。そばまつりについては、どちらかという、集落の方々が集まり、楽しむものという認識のようである。

〔富士副委員長〕 地域外の方々との交流は、あまり無いかも知れない。しかし、県内外のそば屋を視察し、そば打ちや経営を学んだそうで、店を出して自分たちでこれからやっといこうと検討しているようである。

〔千葉委員〕 そばの作付けは、もともとは景観形成の目的であったが、そば打ちも勉強しようと思立ち、それからはその目的で栽培しているらしい。そば打ちは男性、たれづくりは女性が中心となって行っている。毎月1回開催する「小さなそばまつり」には60～80人が集まり、室根山などの良い景色を見ながら食べると言っていた。

〔田村委員〕 大豆の生産は、今後伸びる見込みか。

〔事務局〕 今年7月に、女性による「大平ゆいっこ味噌グループ」を結成したそうであり、販売に向けて保健所の許可も取りたいと言っていたので、伸びると思われる。数年後に、集落の農用地に基盤整備事業も導入するようなので、生産効率も良くなると思われる。

〔田村委員〕 そばよりも大豆の生産の方が簡単と思う。

〔事務局〕 集落の代表からは、そばの生産は、毎年収穫量が大きく変動し、難しいと聞いている。

〔郷右近委員〕 世帯数の半分ほどが後継者であり、農業生産は安定している。「農事組合法人 おくたま農産」との交流もあるようだ。

〔岡田委員長〕 大野区はどちらかという特殊であり、非農家が多く、その分、地域外とのネットワークを構築しやすい。一方で、千厩町大平集落は、北東北では一般的な農村集落なので、このような集落が将来展望を持つことができているならば、賞に値し、他地域のひな型になると思う。後継者が充実している点は評価できるので、それに加え、農業経営の新しさ、技能、質など、他地域も見習うべきものが欲しい。

〔事務局〕 そばについては自信を持っており、近い将来、店を出したいと言っていた。室根山の近くにあることを生かし、ビジネスとしてたくさんの客を呼び込むことや、

産直での味噌の販売といった将来展望を話していた。

〔岡田委員長〕これからは、その点が重要になってくる。高齢化や独居老人世帯の増加、人口減少が刻々と進む中で、これらに対抗して農あるいはそれ以外の産業をしっかりと新しくしていけば、構成員も持続性があることを認識でき、周りの方々も支援する。

〔岡田委員長〕意見交換の結果として、千厩町大平集落に平成 30 年度「いわて中山間賞」を授与することが妥当としてよろしいか。

〔委員一同〕（同意）

③ 山田町「白石集落農業生産組合」

事務局が資料 1 に基づき、取組の概要を説明。

《意見等の内容》

〔岡田委員長〕「生産組合」として調書を提出するにあたり、どういう整理があったのか。

〔事務局〕中山間地域等直接支払制度の実施集落（白石中山間地域等直接支払協定組合）が生産組合と連携して活動しているので、集落としてではなく、生産組合として賞の推薦があった。

〔岡田委員長〕大野区と同じく、集落よりも広い捉え方ということか。

〔事務局〕はい。

〔岡田委員長〕構成員がわずか 16 人という点は、やや気になる。数年後、存続しているのだろうか。

〔事務局〕集落には、首都圏へ働きに出てから、定年後に戻ってくる方もいるので、年をとってからも農業をできるような体制を整備している。

〔岡田委員長〕調書にある「準用河川」とは何か。

〔事務局〕調べたところ、「一級河川及び二級河川以外の法定外河川のうち、市町村長が指定し管理する河川」とのことである。

〔福土副委員長〕白石集落には、宮城県の白石から落人がやって来て、住み着いたそう

である。歴史的には古く、昔の集落を何とか維持したいという思いのもと、「自分たちでやれることはやろう」、「農業をやっているのが楽しい」と、組合員が改めて噛みしめている。開業予定の農家レストランに客が来るかは疑問だが、代表が中心となり、みんなで楽しみながら活動している。また、補助事業を活用して水車小屋を再建するなど、首都圏へ出ていった方が返ってくることを見据え、集落を残さなければいけないという思いが強い印象であった。

[岡田委員長] そういった説明が調書に盛り込まれると、集落を残そうとする方がおり、少人数でも強いことが伝わると思う。

[福士副委員長] 山田町は水産業が盛んであり、アカモクを利用したそばを売りにしている。評判も良いらしい。

[北館委員] いずれの集落にもそばの取組が見られるが、取り入れやすいのだろう。年により収量に変動があるのはそばに限らないと思うが、そばは単収が低く、一反部あたり 30～40kg しか取れないので、ある程度の面積が無いと、効率的に生産できない。競争もあるので、農家レストランでの集客や物販、若しくはふるさと納税の返礼品のような特徴的な取組が必要である。今では携帯電話でも購入でき、人に来てもらう他にも簡単な販売方法もあるので、取り入れても良いと思う。

[事務局] ふるさと納税の返礼品については、西和賀町の「南部かしわ」もエントリーしている。また、アカモクについては、ここ最近、山田町の特産にしようとする動きが見られるので、そういった考えに結びつく可能性もある。

[岡田委員長] 他の集落の参考とすべく表彰するとなると、後継者問題に対する解決策を意識していく必要がある。例えば、集落に若い女性が居れば、地域全体の機動力となり得るので、そういったところが欲しい。首都圏へ出ていった人とのネットワークを様々な形で常に構築できていれば、他の集落の模範となる。

[事務局] 他地域の模範となることだけではなく、賞の授与により組合のやる気が増し、次のステップへ移行することも、事務局として期待している。

[岡田委員長] 意見交換の結果として、白石集落農業生産組合に平成 30 年度「いわて中山間賞」を授与することが妥当としてよろしいか。

[委員一同] (同意)

(2) 岩手県次期総合計画アクションプランの内容に係る意見交換

事務局及び政策地域部政策推進室が資料２～５に基づき、取組の概要を説明。

《意見等の内容》

〔岡田委員長〕 行政政策の段階となれば、各年度に落とし込んだ「年度プラン」ができるのか。

〔事務局〕 今月の半ばに「中間案」を出そうと作業を進めている。その中で、直近の４年間に達成したい目標や、目標達成のための工程も盛り込む予定である。

〔北舘委員〕 数値管理や進捗管理は、年度ごとに行われるのか。

〔事務局〕 予算事業の進捗に基づき管理をするので、毎年度行われる。

〔岡田委員長〕 事業も単独とは限らず、国の風向きにも左右される。年度当初に予算化されれば良いが、補正事業については、年度内で完了するのが困難なものもある。学者と行政が一生懸命計画を作っているが、生活者の抱える問題と乖離があると思う。

〔福士副委員長〕 計画には今後の課題が反映されているが、これら全てが解決されるわけではないので、もっと絞り、解りやすい形にすべき。

〔事務局〕 政策評価や事務事業評価を毎年度実施し、計画通り進んでいるかを検証するが、そのための指標についても検討する必要がある。景気の問題やグローバル化などに影響されず、的確な評価をできるように、一生懸命考えている。毎年得られるデータでなければならないので、国の統計データを使用せざるを得ない可能性があり、また、ものによっては評価時点で数値が出ていないものもあるかも知れないが、県議会等の場で、皆様に進捗をお知らせする。

〔郷右近委員〕 「Ⅵ 仕事・収入」の中に農山漁村の暮らしが入っているが、「地域コミュニティの活動をリードする人材の育成を支援する」とあり、街場と農山漁村を分ける意味はあまり無いと思う。

〔事務局〕 農村の部分を「Ⅳ 居住環境・コミュニティ」に組み込むべきという意見もあると思うが、これまでの農業政策が、産業政策だけでなく、地域政策の部分も密接不可分で行われてきた背景がある。農業が大規模経営体の育成を目標に掲げる一方で、それ以外の方々をどのように支えていくかを示すために、農業・農村をセットとした。

[田村委員] 様々な内容を盛り込まなければならないのは解るが、県として何を核とするのかを明確にし、県民に伝えなければならない。農業分野の大きな課題として「流通」が挙げられるが、計画にはあまり反映されていない。産地化してある程度の量を生産し、流通させることで、収益が得られる。6次産業化に力を入れるのは良いが、産地化と流通も同様に、課題と思う。

[千葉委員] 「一人一人に合った暮らし方ができる農山漁村」というのが漠然としていて、どのように捉えて計画を策定しているのか疑問。また、計画にたくさんの内容が盛り込まれているが、これまでの計画でどの部分を達成し、若しくはできなかったのか判らない。新しいことに取り組む農家を育てたいという気持ちは解るが、農業生産工程管理（GAP）の取得にしても、農家にとっては膨大な作業なので、取得によるメリットや、県が推進する上での目標が見えないといけない。

[佐藤委員] 本日、一関市の中心に、農産物直売所「JAファーマーズいわて平泉」がオープンした。あまりスーパーが無い地域のため、客もたくさん来て、喜ばれるものと思われる。しかし、関係者に話を聞いたところ、すごく大きな店だが、その割に、農家が少ないらしい。オープンまでに、中小企業を含め、様々な分野の方々と話したが、後継者がおらず、また、中には80代の夫婦もおり、運転免許の返上のため、自宅から遠いところへ行けないと言っていた。そういった方々に対し、今すぐにできる具体策を提案しなければならない。農業が生き甲斐となり、皆さんに喜んでもらえるような計画を策定して欲しい。

[事務局] アクションプランの中身については、資料4の14ページ「VI 仕事・収入」の中に、簡潔に記載されている。36～38については産業政策、39については地域政策という観点で、方針が定められている。今後の農業については、「明るさが見えない」、「担い手がない」という声もあるが、儲かっている経営体には、必ず後継者がいる。36では「リーディング経営体」という言葉を使用しているが、黙っていても後継者ができる経営体を、少しでも多く作っていききたい。また、そういった方々がものを作りやすいように、37で産地づくりを推進し、さらに、経営を発展させるため、38で6次産業化を支援することとしている。それから、39では、小規模・兼業農家に対して支援すべきことを反映している。各地域の現状を認識しながら施策に取り組みたい。

[岡田委員長] 自然資源や食料を考えると、岩手県は自給率100%を超えられる。それにもかかわらず、依然として人口を流出させており、おかしいと感じる。

[事務局] 農業への関わり方については、自身で農業を営む場合と、農業経営体の雇用で入る場合がある。例えば本県も力を入れているプロイラー産業では、農場で働く人、

処理工場で働く人、餌会社で働く人を合わせ、約 9,000 人の雇用が生まれている。自営の経営体だけでなく、雇用する経営体をつくることも重要と考えている。雇用という形でも、そこで暮らすという意味では同じである。

- ・ 岩手県次期総合計画アクションプランの内容について、委員から出された意見・提案を、事務局において十分踏まえ、計画に反映することとされた。

【4 その他】

事務局が「平成 30 年度いわて農林水産躍進大会」及び「平成 31 年度岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会」の開催予定について説明。

【5 閉会】

事務局が閉会を宣言。